

第84話 土木土木パネル大作戦★ ~もしかしてアタシ、あいつのこと...~

徳山工業高等専門学校 土木建築工学科「**ディバイダ**」○藤井 和真（4年） 川邊 颯大（4年） 兼坂 亜季（1年） 吉津 沙希（1年）

＜ 企業課題：ヤマダインフラテクノスからの挑戦状 ＞

メンバー・チーム情報

4年と1年、男子と女子、ネタ好きと真面目。チームを結成したものの、小学生みたいなバリアを超えられない日々が続いていたディバイダ。もがき苦しみながら一次審査を通過。そこに定期試験が追い打ちをかける。**絶望と再生から生み出された交通規制に対する逆転の発想**。マイナスからプラスへ。「もしかしてアタシ、あいつのこと…」の意味とは？
今冬最大の問題作、いざ公開・・・！

捉えた課題・着想

1. 交通規制によって生じる「待ち時間」はムダなもの？

橋梁の長期耐久性を確保するためには細やかな点検と修繕工事を重ねることが不可欠であり、その間は交通規制せざるを得ない。現状、こういった**交通規制を完全に無くすことは困難**であり、その道路を毎日のように利用する地域住民にとっては、わずかな待ち時間であっても「またか」と、**多大なストレスや負の感情**に繋がってしまう。そして、これらのマイナスイメージは、工事に対する理解/協力が得られにくくなるだけでなく、苦情対応や度重なる説明会の実施などに多くのリソース（人・モノ・カネ・時間）を割かなければならない。それって仕方ないこと…？

2. 人手不足と建設業の魅力発信

足場や桁下で行われる工事は「身近な土木」でありながら、見えないために正しい知識や情報が伝わりづらく、**現場で伝える**機会も乏しい。

生まれる効果

利用者：今までは無駄であり、ストレスの発生源であった待ち時間が**学びの機会**など**有意義な時間**に「マイナスからプラスへ」変換される。

施工者・発注者：工事に対する住民の**負の感情やクレームが減り**、円滑な工事の遂行、現場スタッフの**士気の向上**につながる。

土木業界：市民に対する**情報発信**の場を得られる、業界イメージの「マイナスからプラスへ」の変換、橋の工事で**楽しかった記憶**を創出することで、**土木業界へのハードル**を下げ、その扉を叩く一助とする。

想定

状況・地域：片側交互規制中の全国各地の橋梁と接続道路
対 象：信号待ちしている先頭3～4台の車にいる人たち

提案内容

“潰す”時間を“過ごす”時間に

- ① 停車中の人から見える位置に**電光パネル**を設置
- ② **赤信号中**：興味をそそる情報やここでしか見られない情報
(内容例：工事風景や工事内容の紹介、作業員の紹介、人物登場つい話したくなる土木雑学、その市の補修工事の実績、地元の隠れた名所紹介、地元企業PRやCMなど…)



- ③ **青信号中**：青信号になると表示が変わり、通行を促す表示が映る



付加価値

- ・ 表示内容を自由自在かつ日替わりで変えられるため、飽きない
- ・ 双方向コミュニケーション（要ネット接続+マイク設置）
- ・ 停車中のスマホいじりによる発進遅れの防止（通行の円滑化）
- ・ 企業CMなどの広告を入れると収入が得られる
- ・ 地元の名所やお得情報を発信することで**近隣地域の活性**に貢献